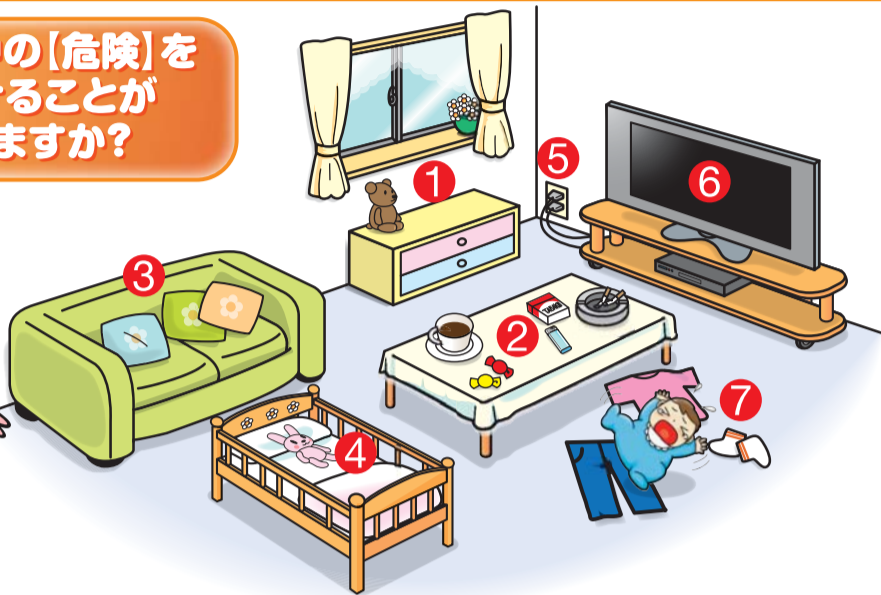


「ヒヤッ!」としたことはありませんか? 幼児の事故は、家の外だけではありません!

幼児の事故は屋外で発生していると思いがちですが、実は家の中でも多く起こっています。東京消防庁に救急要請のあった事例を元に、家庭にはどんな危険が潜んでいるかをご紹介します。

部屋の中の【危険】を見つけることができますか?



- ① 窓の下に物が置いてあると、子供がよじ登って窓から落ちる危険があります。
- ② テーブルの上は、子供が興味を示すものがいっぱいです。
- ③ ソファから落ちてケガをするケースが多くあります。
- ④ ベビーベッドからの転落も多いです。
- ⑤ 子供はコンセントにも興味津々です。感電の危険があります。
- ⑥ 薄型テレビは、ちょっとしたことでバランスを崩し倒れる可能性があります。
- ⑦ 床に置かれた衣類は、転ぶ原因になります。



※※ ご自宅の危険をチェック! ※※

- 窓の下やベランダに、登るための台になりそうなものはありますか?
- テーブルの上に、たばこやライターなど誤って飲みこんでしまいそうなものを置いていませんか?
- 衣類などつまづく原因になりそうなものを床に置いていませんか?
- コンセントキャップ等でコンセントに直接触れないような対策をしていますか?
- 家電製品や家具は固定してありますか?
- ベビーベッドの柵はきちんと閉めていますか?

事故防止のヒント

- ★家庭内での子供の事故で最も多いのは、転倒です。床に置かれた衣類や段差は転ぶ原因になります。転んだ先にイスやテーブル、食器などがあると大きなケガにつながるかもしれません。原因になりそうなものを、もう一度点検してみましょう。
- ★子供は、大きさが約4cm以下(目安として標準的なトイレットペーパーの芯の大きさ)のものなら口に入れる恐れがあります。



命を救うAED

使い方はAEDが声で教えてくれます。

AED(自動体外式除細動器)は、心室細動(心臓がけいれんし、血液を全身に送りだせなくなる状態)を起こした人に対して電気ショックを与え、心臓の動きを正常に戻すためのものです。

AEDは、電源を入れると、声で使い方を教えてくれるので、一般の人でも簡単に、正しく使うことができます。心肺蘇生とAEDで、命を救うことが可能なのです。



AEDの使い方は、とても簡単です。

AEDは、電源を入れるとはじまる音声ガイドに従い「胸部にパッドを貼る」など、簡単な操作で正しく使うことができます。電気ショックが必要かどうかAEDが判断して、教えてくれます。



キリトリ

大切な命を救うために必要な行動

1. まわりに大声で知らせ協力を求めます。
2. すぐに119番通報を行います。
3. 早期に心肺蘇生を行います。
4. AEDがある場合は早期に活用します。

東京消防庁モバイルホームページ
<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/mob/>

「応急手当の手順」をご覧ください。



AEDの使い方



倒れた人を見かけ声をかけても反応がなかったら、周囲に大声で助けを求めて、すぐに119番通報を行います。



呼吸を確認して息がなかったらAED到着まで人工呼吸2回と胸骨圧迫30回を繰り返します。



AEDの電源を入れます。電極パッドを、パッドに書かれた絵のとおりに体に貼ります。
※電極パッドの配線が接続されているか確認してください。



AEDの音声に従います。電気ショックの必要性など全てAEDが判断します。
※解析中や電気ショックをかける時は傷病者に触れないでください。

救命講習を受講しましょう。

<http://www.tfd.metro.tokyo.jp>